

2022年3月 東京地区百貨店売上高概況

2022年4月25日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 225億円余
2. 前年同月比（増減率）	11.3%（7か月連続プラス）
3. 店頭・非店頭の増減	店頭10.3%（88.7%）：非店頭19.6%（11.3%） （）内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 24店（2022年2月対比±0店）
5. 総店舗面積	797,849㎡（前年同月比：-0.5%）
6. 総従業員数	14,998人（前年同月比：-5.6%）
7. 3か月移動平均値	8-10月 -0.7%、9-11月 5.6%、10-12月 9.0%、 11-1月 13.9%、12-2月 12.9%、1-3月 13.2%

[参考] 2021年3月の売上高増減率は18.5%

【特徴】

- (1) 3月の東京地区は、売上高11.3%増(7か月連続)、入店客数14.9%増(6か月連続)と、共に二桁増と高伸した。まん延防止等重点措置の解除や、気温上昇に伴い外出機会が増加したことに加え、各社の催事企画等が奏功した。一方、コロナ禍前の2019年比では、売上高13.7%減、入店客数33.0%減となったが、国内市場は5.9%減まで回復した。
- (2) 商品別では、主要5品目のうち家庭用品を除く4品目でプラスとなった。品目別の動向では、主力の衣料品(7.9%増/6か月連続)が、卒・入学などオケーションニーズの復調を背景に、婦人フォーマルが動いたほか、気温上昇で薄手の羽織物や軽量アウター等の春物も好調に推移した。紳士服ではスーツやジャケット、ワイシャツ等のビジネスアイテムに動きが見られた。
- (3) 身のまわり品(17.7%増/7か月連続)は、ラグジュアリーブランドが牽引する形で大幅増となった。また当月のトピックとして、26日に3つの開運日（一粒稻日・天赦日・寅の日）が重なったことで、特に財布が好調だった。雑貨(12.5%増/7か月連続)では、時計・宝飾等、高額品の増勢が続いているほか、化粧品は外出機会の増加やタッチアップの再開で、口紅等メイクアップ商品が動くと共に、季節の変わり目でスキンケア商品も堅調に推移した。
- (4) 家庭用品(0.1%減/2か月連続)は和洋食器等、贈答アイテムが好調だったものの、イエナカ需要は一巡した。食料品(13.7%増/7か月連続)では、生鮮食品が苦戦しているが、弁当や和洋惣菜、パン等は好調に推移した。
- (5) 4月中間段階の商況は13.8%増(4/17時点)と増勢を強めて推移している。2019年比では約14%減とコロナ禍前の水準には届かないが、着実に回復傾向を示している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日（前年同月比 ±0.0日）
- (2) 入店客数増減（回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数17店舗）
①増加した：12店、②変化なし：2店、③減少した：3店
- (3) 3月歳時記（ホワイトデー、卒業・入学、新生活）の売上（同上／有効回答数14店舗）
①増加した：7店、②変化なし：7店、③減少した：0店

東京地区百貨店 売上高速報 2022年3月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	122,575,589	100.0	11.3
紳士服・洋品	8,549,228	7.0	7.8
婦人服・洋品	19,092,143	15.6	11.4
子供服・洋品	4,471,277	3.6	-4.5
その他衣料品	1,704,584	1.4	7.6
衣 料 品	33,817,232	27.6	7.9
身のまわり品	18,839,849	15.4	17.7
化粧品	11,749,720	9.6	8.6
美術・宝飾・貴金属	11,651,554	9.5	19.8
その他雑貨	4,495,352	3.7	6.1
雑 貨	27,896,626	22.8	12.5
家 具	1,611,967	1.3	6.1
家 電	1,067,181	0.9	22.6
その他家庭用品	3,023,864	2.5	-8.9
家 庭 用 品	5,703,012	4.7	-0.1
生 鮮 食 品	3,362,291	2.7	-0.5
菓 子	10,374,174	8.5	19.6
惣 菜	6,483,285	5.3	19.6
その他食料品	9,083,000	7.4	9.4
食 料 品	29,302,750	23.9	13.7
食 堂 喫 茶	1,911,137	1.6	15.8
サ ー ビ ス	2,115,906	1.7	-4.7
そ の 他	2,989,077	2.4	12.5

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商品券	1,934,805 千円	-7.6
従業員数	14,998 人	-5.6
店舗面積	797,849 m ²	-0.5

営業日数	31.0 日	前年	31.0 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、家庭用品が2か月連続でマイナスとなったが、その他の4品目はプラスとなった。その他の品目は、紳士服・洋品が5か月連続、婦人服・洋品が7か月連続でプラスとなったほか、菓子、惣菜が13か月連続でプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	11.3	—	7か月連続プラス
紳士服・洋品	7.8	0.6	5か月連続プラス
婦人服・洋品	11.4	1.8	7か月連続プラス
子供服・洋品	-4.5	-0.2	2か月連続マイナス
その他衣料品	7.6	0.1	2か月ぶりプラス
衣料品	7.9	2.3	6か月連続プラス
身のまわり品	17.7	2.6	7か月連続プラス
化粧品	8.6	0.8	7か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	19.8	1.7	14か月連続プラス*
その他雑貨	6.1	0.2	2か月ぶりプラス*
雑貨	12.5	2.8	7か月連続プラス
家具	6.1	0.1	4か月連続プラス
家電	22.6	0.2	2か月連続プラス
その他家庭用品	-8.9	-0.3	2か月連続マイナス
家庭用品	-0.1	-0.0	2か月連続マイナス
生鮮食品	-0.5	-0.0	10か月連続マイナス*
菓子	19.6	1.5	13か月連続プラス*
惣菜	19.6	1.0	13か月連続プラス*
その他食料品	9.4	0.7	3か月連続プラス*
食料品	13.7	3.2	7か月連続プラス
食堂喫茶	15.8	0.2	2か月ぶりプラス
サービス	-4.7	-0.1	3か月ぶりマイナス
その他	12.5	0.3	13か月ぶりプラス
商品券	-7.6	-0.1	4か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>